

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

こうしつ み てら せんにゅうじ
 特集陳列 皇室の御寺 泉涌寺について勉強しよう。

せんにゅうじ しゅんじょう
 泉涌寺と俊苧

とうふくじ けんにんじ みょうほういんもんぜき せん
 東福寺や建仁寺、あるいは妙法院門跡とならび、京都東山の観光名所となっている泉涌寺。このお寺の長い歴史を語るうえで、重要な人物や出来事はたくさん存在しますが、とりわけ欠かせないのは俊苧（月輪大師、1166～1227）というお坊さんです。もしかしたら、「はじめて名前を聞いた」という方もいるかも知れません。

しゅんじょう せんにゅうじ ふ か き ほうし でん
 俊苧については、弟子がまとめた『泉涌寺不可棄法師伝』という伝記が残されているため、事績を追うことが可能となります。それによれば、仁安元年（1166）、肥後国飽田郡、現在の熊本県上益城郡に生まれました。幼くして仏門にはいり、読んだお経は暗記してしまうなど、驚くべき能力を発揮したといいます。おもに九州各地で修行に励んだのち、自身が感じた仏教にたいする疑問を解決し、多くの人々を導くため、当時は南宋とよばれた中国へと留学します。建久10年（1199）、34歳のときでした。

中国での俊苧は、高名なお坊さんを訪ね、「律」という教えを中心に、禅や天台など、さまざまな学問を修めました。もともと、才能があったことにくわえ、たえず努力を重ねた結果、朝野の尊敬を集め、その名は広く知れわたるところとなり、「日本に帰らずにいてくれるなら、正しい教えを受け継ぐ者はもっと多くなる」と漏らす人もいたほどでした。こうして惜しまれながらも、足かけ12年におよぶ留学を終えると、膨大な数のお経や絵画を携え、建暦元年（1211）に帰国します。

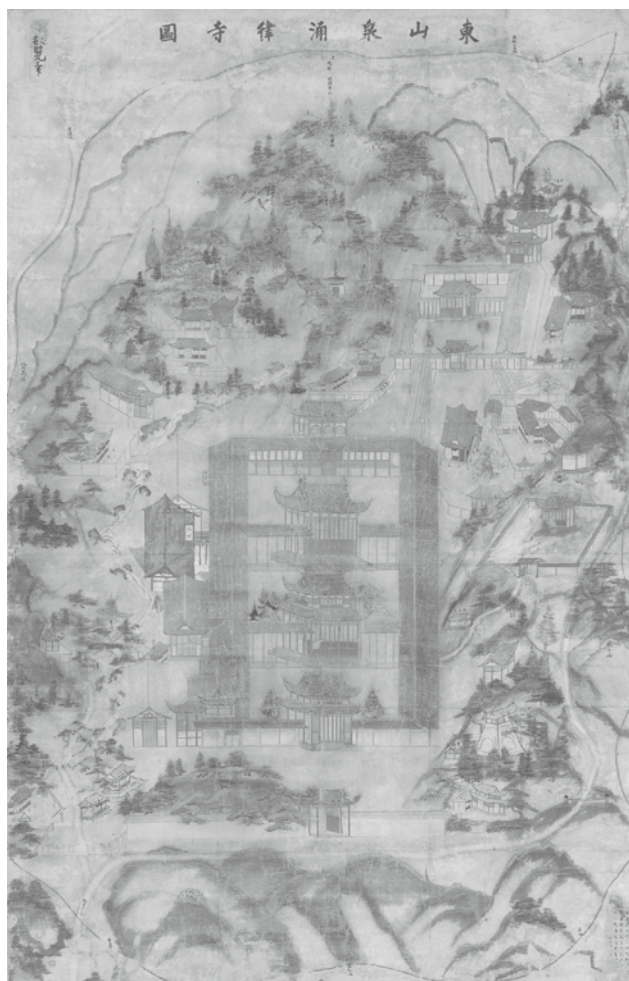


図1 《東山泉涌律寺図》 泉涌寺蔵

